

巻頭言 ————— 岩田健男

2

編集委員・著者一覧 —————

8

PRD 掲載論文Highlight

ベストセレクト

全訳翻訳

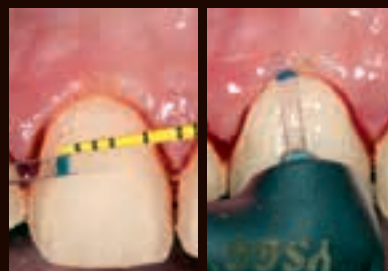
歯周病学 I

レーザーによる審美的歯冠長延長術：オープンフラップ vs フラップレス

Altayeb W et al

論文解説：森本太一郎

15



歯周病学 II

骨内欠損に対して Modified Minimally Invasive Surgical Technique に rhFGF-2 を応用した歯周組織再生療法の臨床的成果：12 ヶ月フォローアップの症例シリーズ

Imamura K et al

論文解説：星 嵩
和泉雄一

29



補綴 I

審美領域における歯槽堤保存術と併用した抜歯即時オベイトポンティック周囲の寸法変化と歯槽堤カントウアの評価

Song SJ et al

論文解説：岩田健男

39



補綴 II

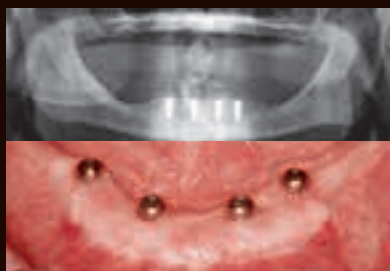
臼歯部咬合崩壊：形態と機能に基づく治療ガイドライン

Nakamura SS et al

論文解説：金子潤平
浦野 智

55





外科 I

水平的骨造成のための改訂ディジションツリー：
ナラティブレビュー

67

Yu S-H and Wang H-L

論文解説：黒嶋伸一郎
澤瀬 隆

外科 II

オトガイ孔周囲の骨膜の分類とフラップの伸展
テクニック

79

Urban IA et al

論文解説：菊地康司
石川知弘

インプラント I

インプラント治療の進化におけるパラダイムシフト

89

Di Gianfilippo R et al

論文解説：松井徳雄

インプラント II

インプラント上部構造 - 隣在歯間コンタクトポイント喪失に関する分析：10 年の後ろ向き研究

101

Manicone PF et al

論文解説：中田光太郎

新材料・テクニック I

下顎切歯部の深い孤立した歯肉退縮の治療：新しい
インターディシプリナリーな矯正 - 歯肉歯槽粘
膜アプローチ

113

Fadda M et al

論文解説：岩野義弘

新材料・テクニック II

頬側寄り歯槽頂切開 (FOCIS) デザインを用いた
部分欠損歯列における水平的GBRの後ろ向き
研究結果

125

Siqueira R et al

論文解説：小谷洋平
佐々木 猛

【PRD 発】 世界最新テクニック&マテリアル
成人矯正を成功に導くための歯周 - 矯正治療

**I 歯列不正をともなう骨吸収および
歯肉退縮の対処方法**

金成雅彦

142



**II 成人矯正治療における歯肉退縮への
新たな根面被覆を用いたアプローチ法**

山道研介

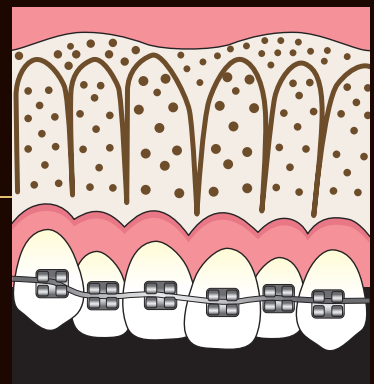
154



**III SFOT (PAOO) を応用する
新たな歯周 - 矯正治療**

佐分利清信

168



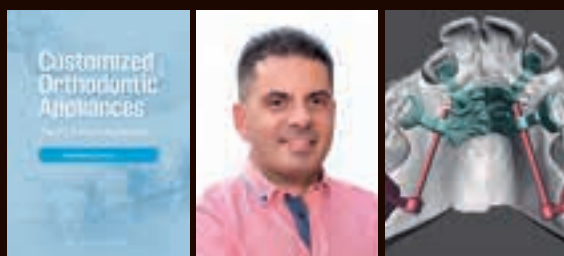


海外学会レポート

International Dental Show 2023 現地レポート

184

中嶋 亮／雀 齊原／宮井崇宏



読んでおきたい 海外書籍紹介

Customized Orthodontic Appliances : Theory, Design, Application / Nearchos C. Panayi [編著]

188

書評：深澤真一



大学紹介

カリフォルニア大学 ロサンゼルス校 歯学部補綴科

190

駒津匡二

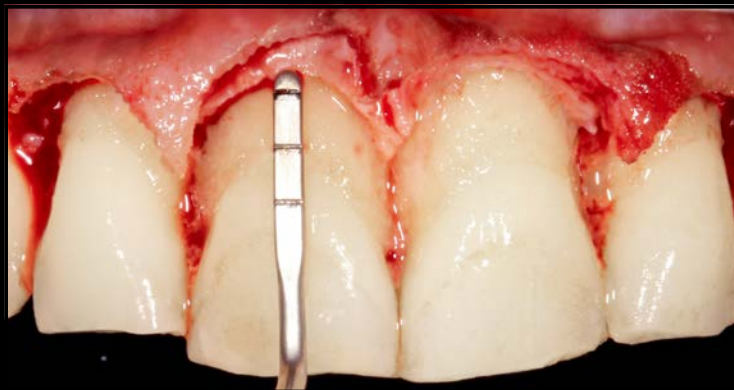
198 巻末言

山崎長郎

Periodontics I

Laser-Assisted Esthetic Crown Lengthening: Open-Flap Versus Flapless

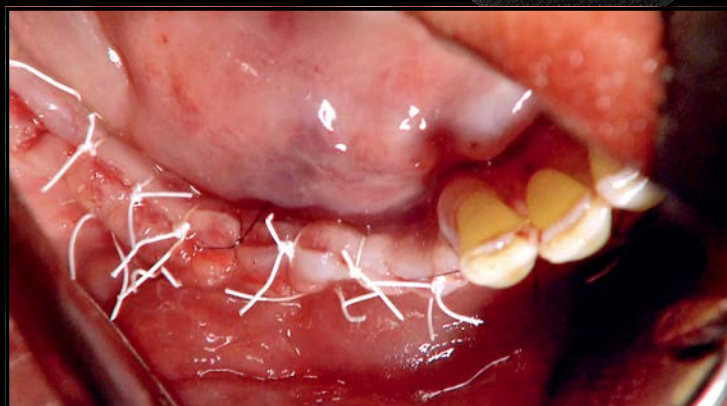
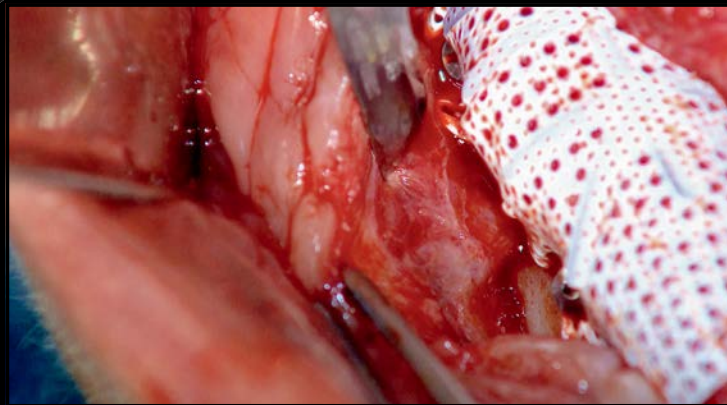
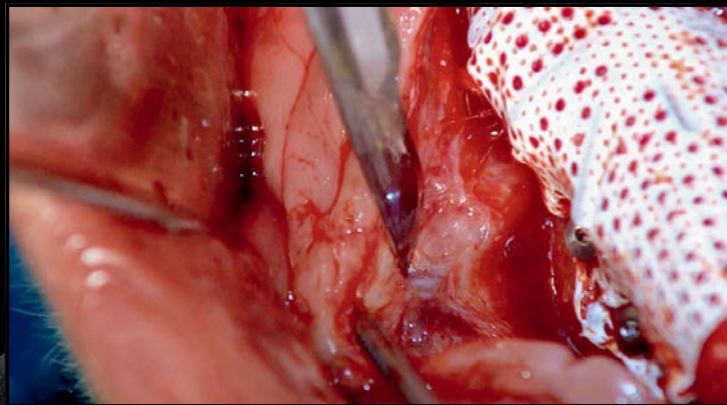
Walid Altayeb, DDS / Josep Arnabat-Dominguez / Samuel B. Low / Ahmed Abdullah / Georgios E. Romanos



Surgery II

Periosteum Classification and Flap Advancement
Techniques Around the Mental Foramen

Istvan A. Urban / Celia Sommer / I-Ching Wang / Hom-Lay
Wang



I 歯列不正をともなう骨吸収および歯肉退縮の対処方法

金成雅彦 山口県：クリスタル歯科



図13 Giovanni Zucchelliの根面被覆に対する術前処置¹⁶。NCCLに対する処置としては、タイプ3に相当した。

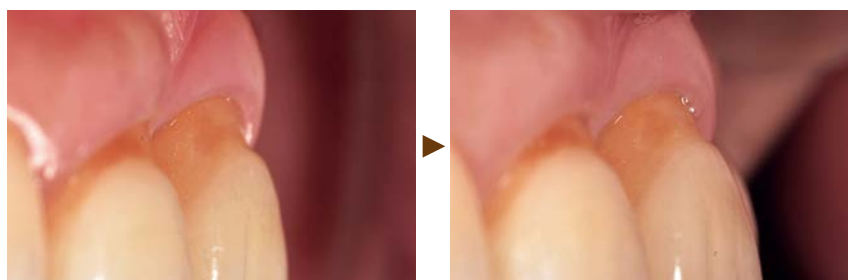
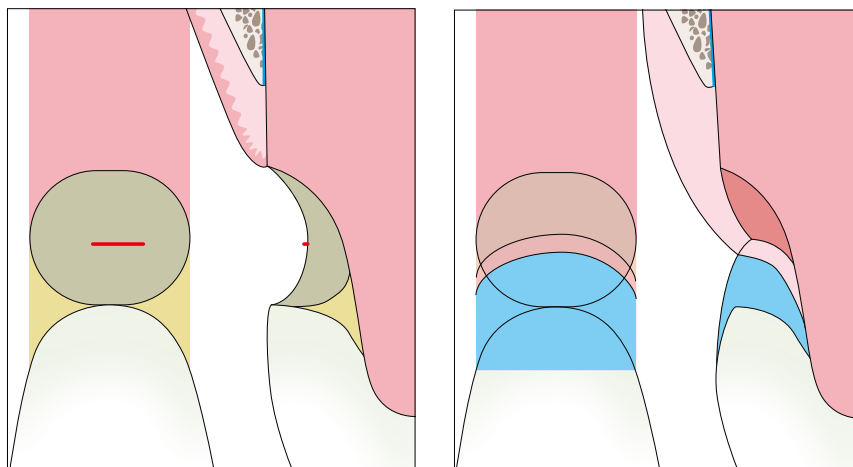


図14 NCCLに対する処置として、MRC(maximum root coverage level)の位置までコンポジットレジンにて修復した。

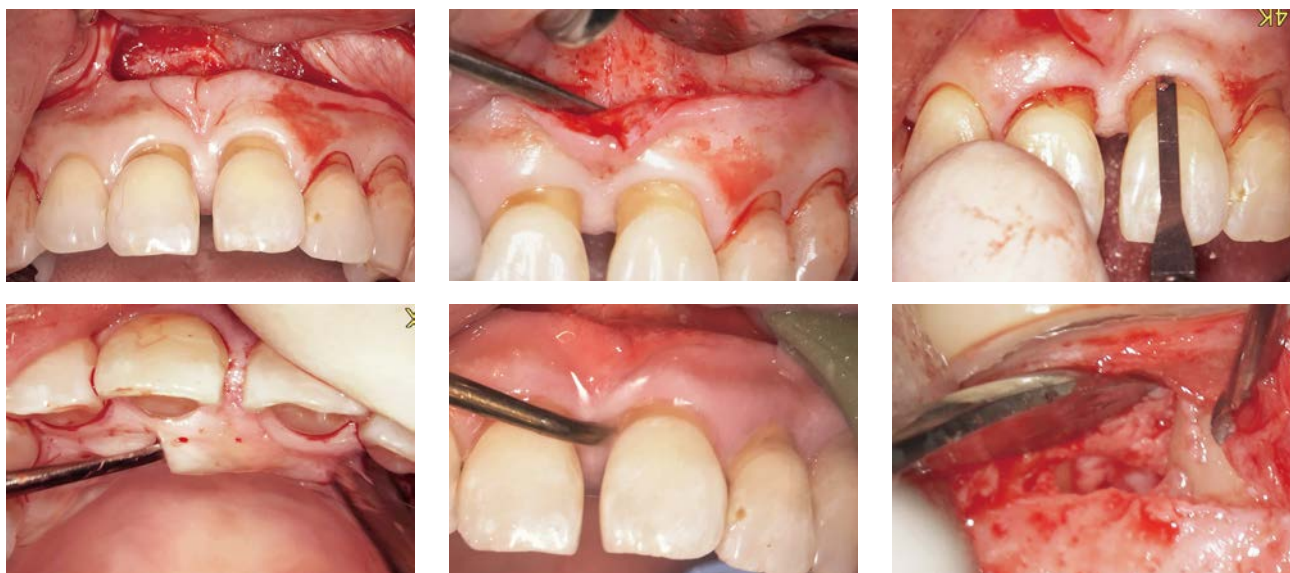


図15 歯頸部から10mm以上離れた位置に水平切開をし、全層弁にて歯冠側方向へ剥離翻転した。歯の全周に歯肉溝内切開、舌側には縦切開を入れ、歯肉をリフトし、骨欠損部の郭清をした。

II 成人矯正治療における歯肉退縮への新たな根面被覆を用いたアプローチ法

山道研介 福岡県：山道歯科医院

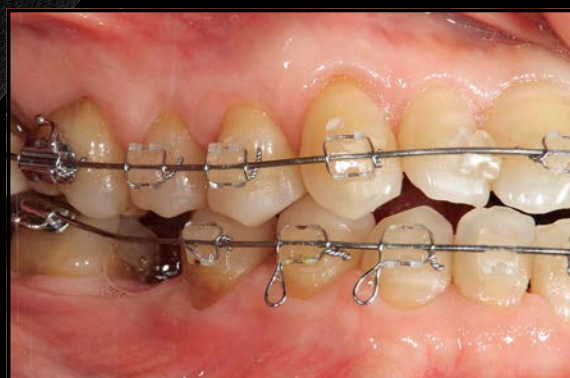




図24 アンジオジェネシスと創傷治癒効果を期待して、生理活性物質はアメロジェニンを選択した(a)。根面被覆の範囲に応じた上皮下結合組織のトリミングを行い、試適した(b)。



図25 吸収性系にて歯冠側に移植片の固定を行ったのち、5-0ナイロンにてCoronary Advanced Flap(CAF)を開創した。

図26 術後4日目の歯周組織正面観。創傷部のネクロシスは認められず安定している(a)。術後13日の抜糸時では、縫合部の拘縮はなく、移植片は生着している(b)。



図27 術後180日経過観察時の歯周組織正面観。移植部位は両隣在歯周組織と比較して歯肉の厚さの増加と新生血管が顕著に認められる。



創傷治癒の進行を確認した。術後13日で抜糸を行ったが、縫合部の拘縮は認められなかった(図26b)。アメロジェニンの効果により、移植部位の血管新生が亢進していることが認められる。

図27は術後180日経過観察時の歯周組織正面観を示す。Maynerd Type 4 からType 3 へとフェノタイプモディフィケーションが達成された。移植部位における上皮の毛細血管量が隣在歯周組織と比較して増加していることから、CTGとアメロジェニン

の併用により、血管新生が促進され、血液供給量が改善された。

考察

歯肉退縮が生じる原因として、次のようなものが挙げられる。

- ①慢性歯周炎の進行によるアタッチメントロス
- ②不適切なブラッシング圧
- ③加齢

III SFOT (PAOO) を応用する新たな歯周 - 矯正治療

佐分利清信 愛知県：さぶり歯科

